

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.87



2020 年 9 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 上半期の活動報告と下半期の活動の進め方・・・・・・・・・・	理事長 渡辺 誠・・・・	2
○ 日本バスケットボール協会新役員選任・・・・・・・・・・		3
○ バスケットボール活動再開に向けたガイドライン・・・・・・・・		5
JBA策定（6月8日作成）の概要		
○ 【先人の軌跡】 戦後の日本バスケットボールの夜明け・・・・・・・・	歴史部・・・・	9
1956年メルボルンオリンピック参加までの道程		
○ シニアチーム紹介 千葉 COKI,COKI・・・・・・・・・・	普及部・・・・	14
○ 会員だより		
リングに向かって“飛べ”10年後の子供達・・・・・・・・		鈴木 承二・・・・16
その7：板橋区チーム“志五小 じょうだんズ”		
○ 高校籠球ふるさと記（大阪府編）・・・・・・・・・・	事務局・・・・	18
○ 神田バスケットボール資料室（2020年9月）・・・・・・・・	事務局・・・・	24
○ 事務局だより・・・・・・・・・・		26
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・		27

上半期の活動報告と下半期の活動の進め方

理事長 渡辺 誠

会員の皆さまには、新型コロナウイルス感染拡大の傾向が続く中、いかがお暮しですか。

本年も例年のように、4月に理事会を開催して議案を審議いただき、5月の定期総会で会員の皆さまに議案の承認をいただく予定でした。

しかし、ご報告させていただきましたように、理事会、総会共に「書面表決」という思わぬ対応の提案をお願いせざるを得ない状況になり、「令和2年度定期総会議案書」を皆様に送付し、ご承認していただくことになりました。ご協力いただき心から感謝申し上げます。

令和2年度活動計画である「中学生クリニック」の開催は、中止を決断しました。

「バスケットボールプラザ 86 号」は、編集部の皆さんのご協力で第1四半期の6月号として7月初頭に発送することができました。プラザの作成については、編集部の集会を開催せず、リモートに対応しました。

「神田バスケットボール資料室」につきましては、資料の整理を進め、外部の方に閲覧できるように対応しています。

11月に予定した「シニア交歓大会」については、「参加チームの皆さんへのアンケート」、「6／8 JBAバスケットボール再開に向けてのガイドライン」、「代々木青少年スポーツセンター」の「体育館使用に関する指針」などを参考にしました。現段階では開催が不可能であると決断し、7/22付けで参加チームの皆さんに「シニア交歓大会」について「開催中止の案内」を書面で送付させていただきました。次年度は、代々木第二体育館での開催を実現したいと考えています。

11月中旬予定の「秋期講演会」「懇親会」の開催についても、残念なことです。上記行事と同様の判断で中止させていただきます。

現在、事務局も必要で最小限の活動にとどめています。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐことを第一に、下半期の活動計画の実行について判断する所存であり、何卒皆様方のご理解・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

以上

日本バスケットボール協会新役員選任

[編集部]

日本バスケットボール協会（JBA）は、去る6月28日、定時評議員会を開催して下記のJBA新役員を選任した。

再任された三屋裕子会長からの下記コメントが公表されている。

三屋裕子会長コメント（JBAニュースより）

「本日、評議員の皆様の選任を受け、また臨時理事会を経て3期目の会長職を拝命しました。これまでもバスケットボール界の発展を願い、誠心誠意、全力で努めてまいりましたが、今後より一層、リーダーシップを発揮し、まい進いたします。

3期目となる今期は、理事としてトップリーグ、都道府県協会の代表者らに加え、障がい者スポーツの代表として車いすバスケットボール連盟の方、さらにはマーケティング、PR等の専門家も招き、オールバスケットボールの体制を構築しました。いま、新型コロナウイルス感染症の影響により、世界中で「新たな日常」が求められるなか、新しい時代のスポーツ界をけん引していくべく、オールバスケットボールで取り組んでいくべき様々な施策を検討し、今後積極的に展開してまいりたいと考えます。

今期は、JBA創設90年という節目の年でもあり、10年後の100周年に向けた、またさらにその先の100年に向けたスタートの年でもあります。次世代のバスケットボール界に向けた更なる基盤の強化、人材の育成等、我々は様々な視点から改革の果実を実らせていかなければなりません。来年には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も控えています。何事も一朝一夕で実現するものではありませんが、カテゴリー等の区別なく、日本一丸となって、バスケットボール界の発展を実現させていきましょう。

ステークホルダーの皆様におかれましては、今後とも当協会の活動にご理解を賜りますとともに、ご支援・ご声援をいただけますよう、なにとぞよろしくお願いいたします」

新役員一覧（JBAニュースより）

役職	氏名	年齢	留/再/新	備考
会長	三屋 裕子	61	留任	JBA代表理事（会長職3期目） FIBAセントラルボードメンバー 東京オリ・パラ競技大会組織委員会顧問
副会長	門川 浩人	65	留任（※）	JBA代表理事（※副会長職今期新任） 愛知県バスケットボール協会 専務理事 日本社会人バスケット連盟 専務理事
副会長	西井 歳晴	67	留任	WJBL 副会長兼専務理事
副会長	島田 慎二	49	新任	B. LEAGUE 理事（2020/7/1チェアマン就任予定） 全日本テコンドー協会 理事 日本トップリーグ連盟機構 理事

理事	日越 延利	64	留任	沖縄県バスケットボール協会 専務理事 沖縄県スポーツ協会 理事
理事	大野 健男	63	留任	千葉県バスケットボール協会 専務理事
理事	吉田 裕司	62	新任	京都府バスケットボール協会 専務理事 洛南高等学校 教諭
理事	尾崎 哲	62	新任	野村アセットマネジメント(株)取締役会長
理事	田中 俊和	60	新任	住友不動産(株) 常勤監査役
理事	竹内 美奈子	59	新任	日本車いすバスケットボール連盟 理事 (株)TM Future 代表取締役 (株)滋賀銀行 社外取締役
理事	鶴 宏明	59	新任	B. MARKETING(株) 取締役会長 B. LEAGUE 特任理事 江副記念リクルート財団 代表理事/専務理事
理事	境田 正樹	56	留任	東京大学 理事 弁護士 スポーツ庁 スポーツ審議会 委員
理事	鷹野 志穂	56	新任	(株)エトワ 代表取締役社長 森永製菓(株) 社外取締役 藤田観光(株) 社外取締役
理事	藤原 修	53	留任	岩手県バスケットボール協会 専務理事
理事	守屋 志保	46	留任	江戸川大学 教授
理事	古川 宏一郎	45	新任	B. LEAGUE 代表理事COO
監事	中森 真紀子	56	留任	公認会計士・税理士 伊藤忠商事(株) 取締役
監事	広瀬 史乃	53	新任	弁護士 全日本野球協会 常務理事

※任期：2021年9月開催の定時評議員会終結の時まで／年齢は2020年6月28日現在

新事務総長 7月1日付け就任

浜武 恭生 44歳 現職：JBA 副事務総長 / B. LEAGUE 専務執行役員 ほか

バスケットボール活動再開に向けたガイドライン

J B A 策定（6 月 8 日作成）の概要

[編集部]

新型コロナウイルス感染予防については、誰しもが工夫を凝らしていると思われるが、バスケットボール競技においては、狭いコートで選手がぶつかり合うことから、その対策が非常に困難であるといえよう。

感染終息が見えない中、トップリーグにおいては10月再開を目指して諸準備が進められているが、私たちの周囲では殆どの大会が中止や延期となっている。

去る5月に国内の非常事態宣言が解除され、スポーツについてもいろいろな種目で感染防止処置を講じながら、少しずつ観客も入れるようになってきている。

バスケットボールについては、J B Aが活動再開時の留意点などをまとめた首題の「ガイドライン」を6月に策定発表しているので、その概要を以下に掲載する。

このガイドラインは、競技者や指導者、大会運営者、審判員、施設管理者など各部門別にバスケットボール活動再開への道筋や基準を細かく示しているが、共通する部分も多く内容も膨大になるので、チーム、指導者、スタッフに対応する内容を掲載することとした。

会員の皆様には、普段の活動はもとより、大会の開催、参加などに際し、ぜひ順守して頂きたい。

<基本方針>

1) 安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除する。選手、チーム、指導者、審判、運営スタッフと、それらの家族などが安全に活動できる環境を提供する。

2) 新しい日常・新しい生活様式への適応

即座にコロナ感染が広がる前の日常に戻ることはないということを前提に、置かれた状況の正確な分析と理解が必要。

3) F I B Aガイドラインの参照

F I B Aが活動再開へ向けたガイドラインを公開しており、バスケットボール競技の特性を考慮。

4) 不当な扱いや差別などの禁止

感染状況で異なる活動の差に対して、選手やチームを不当に扱うことを禁じ、感染状況に起因する一切の差別や誹謗、中傷などを行わない。

<事前の対応>

活動の主催者は、会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加者に対して感染防止のために選手やスタッフ、審判などが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し合い、お互いに協力し合うことが重要である。

主催者及び参加者は、それぞれ感染防止対策責任者を設置し、事前、当日、事後に、お互いが連絡を取り合える環境を構築する。

それぞれにおいて集会、イベントの開催が許可された状況下であっても、ガイドラインに示す項目の実行が難しいと判断される場合は、活動の中止や延期などを検討する。

各個人が感染防止対策を講じることは重要であるが、仮に誰かが感染した場合でも濃厚接触者を最小限にする対策も主催者に求められている。

したがって、活動当日体調が良くない場合、同居家族や身近な人に感染が疑われる人がいた場合などは、活動への自主的な参加見合わせを求められることは言うまでもない。

＜チーム、指導者、スタッフ用チェック項目＞

1) 事前準備

- (1) チーム内において感染対策責任者を定め、所属協会・連盟担当者の連絡先を把握する
- (2) 活動する上での注意事項を、関係するすべての人と共有し理解してもらう（不安がある場合は参加を見送る）
- (3) チーム内の選手、スタッフの健康管理表を入手、活動日まで健康チェックを行う
- (4) 選手が未成年の場合は、保護者が活動内容を理解して活動への参加を了承する

2) 活動場所への移動

- (1) マスクを着用する
- (2) 往復の交通機関利用時は、ラッシュ時や人混みの車両を避ける
- (3) 窓を開ける等、換気が良くなる工夫をする
- (4) 切符を買うために使う指を限定し、その際に使用した指で顔や目を触らない
- (5) 電車・バス等公共の交通機関において、常に他者と距離を取り会話も控える
- (6) 目的地到着後、特につり革、手すりなどに触った手を洗い、消毒、うがいをする
- (7) 活動が終わった後、寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する

3) トレーニング、試合前

- (1) 選手、指導者、スタッフはプレーのとき以外にはマスクを着用する
- (2) 選手、指導者、スタッフは健康チェックシートをチームの感染対策責任者に提出する
- (3) 活動終了後着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る
- (4) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてローテーションを組む等の工夫をする
- (5) 握手やハイタッチ等は行わない
- (6) 円陣は行わない
- (7) ミーティングの回数・時間を減らす、もしくは行わない

4) トレーニング、試合中

- (1) 指導者、スタッフ、ベンチに座る選手はマスクを着用する
- (2) プレー以外の不要な接触を避ける（得点時の声や交代時の握手等）
- (3) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離を置く
- (4) ベンチにおいても選手間の距離を保つ
- (5) 交代の選手はアップ時にも他の選手と距離を置く
- (6) 水、氷を溜めたクーラーボックスにボトルを漬けない
- (7) ボトルを他の選手と共用しない
- (8) タオル、リネン、ビブス等を他の選手と共用しない
- (9) 屋内コート・3 x 3スポーツコートでは、コート用シューズのみの使用とする
- (10) テーブルオフィシャルを担当する者はマスクを着用する

5) トレーニング、試合後

- (1) 更衣室に戻る前に消毒や手洗い、うがいをする
- (2) 選手交代後においても消毒や手洗い、うがいをする
- (3) 退席や退場の際等、審判員と会話をするのがあったとしてもその距離には十分に配慮する
- (4) 怪我をした選手を他の選手がむやみに接触しない。また、コート外に当該選手を移動させる際は、おんぶや抱っこを避け、担架を活用する。仮におんぶ等をして当該選手を移動させた場合、移動に関わった人は速やかに消毒を行う
- (5) メディカルスタッフはラテックスグローブを活用する
- (6) 試合後のチーム、審判員との挨拶、相手チームベンチへの挨拶は行わない

6) 更衣室、シャワー

- (1) 更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっぱなしにする
- (2) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る
- (3) シャワーの利用にはローテーションを組んで交代で浴びるなどの工夫をする
- (4) 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分するか持ち帰る

7) 日常健康管理

- (1) 手洗い、うがいを徹底する
- (2) バランスの良い食事をする
- (3) 検温とともに行動記録を書く
- (4) 早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する

8) 事後対応

- (1) チームの中から感染者が出た場合は、感染対策責任者に速やかにその旨伝える

9) 手洗い場所

- (1) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する
- (2) 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- (3) 手洗い場に手を拭くためのペーパータオルを必要に応じて用意する
- (4) 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意する

10) 更衣室、休憩スペース

- (1) 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避ける
- (2) ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置を講ずる
- (3) 室内またはスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒する
- (4) 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する
- (5) スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする

11) 洗面所

- (1) トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所についてはこまめに消毒する
- (2) トイレの蓋を閉めてから汚物を流すよう表示する
- (3) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する
- (4) 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- (5) 手洗い場に手を拭くためのペーパータオルを必要に応じて用意する

12) スポーツ用具の管理

- (1) 利用者にスポーツ用具を持参してもらうよう周知する

- (2) やむを得ず共用するスポーツ用具については、手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にした上で、こまめに消毒する
- (3) スポーツ用具の貸し出しを行う場合は、貸し出しを行った利用者を特定できる工夫をする
- (4) 貸し出し前後に消毒する

1 3) 観客の管理

- (1) 施設に観客を入場させる場合には、観客同士が密な状態にならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとる
- (2) 大声での声援を送らないことや会話を控えること、マスクを着用すること等の留意事項を周知する

1 4) 運動・スポーツを行う施設の環境

- (1) 換気設備を適切に運転し、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う
- (2) 体育館の床をこまめに清掃する
- (3) 体育館等の施設においても、密な状態とならないようにする

1 5) 施設の出入り口

- (1) 手指の消毒設備を設置する
- (2) 施設利用時の利用者が遵守すべき事項のチェックリストを掲示する

1 6) ゴミの廃棄

- (1) 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密封して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する
- (2) マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

1 7) 清掃・消毒

- (1) 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃する
- (2) 通常の清掃後、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、終業後に清拭消毒する

1 8) その他

- (1) 運動・スポーツの際の栄養補給等として飲食物を利用者に提供する際は、以下などに配慮して適切に行う
- (2) 利用者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声をかける
- (3) スポーツドリンクについては、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する
- (4) ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは共用しない
- (5) 飲食物を扱うスタッフは必ずマスクを着用する

以上記したように活動再開については、細心の注意とガイドラインに示された項目の忠実な実践が求められる。

バスケットボール競技の性格上、トレーニングや試合の最中に、マスクを着用することは困難な状況にあるが、それ以外の時はマスクの常時着用と都度頻繁な手洗いやうがい、飛び散る汗を他人に浴びせないこと、衣類やタオルなどの非接触など、多くの感染防止対策が強く求められる。

先が見えない感染の終息化と、活動が厳しい環境の中、以前のように何も気にせずにバスケットボール活動ができる日が待ち遠しい。

以上

【先人の軌跡】

戦後の日本バスケットボールの夜明け

1956 年メルボルンオリンピック参加までの道程

[歴史部]

1936 年（昭 11）のベルリンオリンピック以来、12 年ぶりの 1948 年（昭 23）、ロンドンオリンピックが開催された。しかし、日本はドイツと共に戦犯国として国際オリンピック委員会（I O C）から許可が得られずオリンピックに参加ができなかった。戦後に日本が初めて参加した 1952 年（昭 27）のヘルシンキオリンピックでは、日本バスケットボールの国際的な実力レベルが参加可否を日本体育協会に認めることができず、結果として、バスケットボール競技は参加に至らなかった。（理由は、個人の競技種目が参加の主体で、団体競技は海外との試合ができていなかったため日本の国際的な実力を評価できなかったなどにある）

その後、当時アジアの強豪国であったフィリピンとの交流と試合を重ね、日本の実力レベルを日本体育協会の評価につなげ、1956 年（昭 31）のメルボルンオリンピックでの参加が実現した。このような経緯と当時の日本バスケットボール協会が行った努力について、過去にプラザにまとめた。（プラザ No. 51 メルボルンオリンピック参加までの道程）

戦前の日本バスケットボール協会の機関誌「籠球」は、1942 年（昭 17）発行の 33・34 号の合併号を最後に終刊した。全ての運動競技の協会が、各自の機関誌を「大日本体育協会」の機関誌「体育日本」に統一されて発行されることを決定したことによる。同様に各競技団体も「大日本体育協会」の一部会となった。スポーツの活動については、1944 年（昭 19）1 月の大日本体育協会・籠球部会の理事会で学生の競技が禁止となり、3 月には、大日本体育協会のすべての活動も停止されるにいたった。

戦後のバスケット

戦争によって、日本は、すべてのスポーツ活動が禁止されたが、終戦後、日本のバスケットボール界は、アメリカ占領下の中から復興に向けて力強く歩みはじめた。

1) 占領期のスポーツ

戦後アメリカ軍に進駐された日本にあって、連合軍総司令部（GHQ）の野球復興事業の責任者は、マッカーサー将軍の腹心の部下の一人で経済科学局局长（ESS）の地位にあった野球好きのウィリアム・マーカット少将であった。日本に駐留する第 8 軍（U.S. Eighth Army アメリカ軍の部隊名）の兵士たちが快適に職務に専念できるように娯楽やスポーツの場として球場の接収などをおこなった。横浜には、アメリカ兵のためにコカコーラ工場が作られ、東京宝塚劇場が「アーニーパイル劇場」となり、神宮の野球場が「ステイト・サイドパーク」などの名称に変わり、GHQ の管理下に置かれた。「横浜フライヤージム」「羽田ビッグマンジム」「両国メモリアルホール」「神田ナショナルジム」などの競技場で盛んにアメリカ軍によるバスケットボールの試合がおこなわれた。

アメリカでは、野球と並ぶ人気スポーツがバスケットボールであったことは、日本のバスケットボール界の復興に大きな力となった。当時の「新聞」「雑誌」「ラジオの実況」などでこの2つの競技は、大きく取り扱われ報道されていた。

スポーツと娯楽がアメリカの兵士たちの楽しみのためでなく、「アメリカの文化」もアメリカの政策によって日本の社会へ大きく影響することとなった。

2) 復興へのスタート (1945~1950)

(日本バスケットボール協会の発足と戦後初めての国際大会まで)

終戦の年の1945年(昭20)11月には、日本のスポーツ界は早くも復興へスタートし、「東西対抗野球」が開催された。バスケット界も11月に、富田毅郎を中心に三ッ本常彦、牧山圭秀、七海久などの有志が集まり1945年11月27日「大日本体育会・籠球部会」の理事会を開き、協会再建の準備会を作った。さらに12月1日に従来理事であった人達と現役の人達を集め、日本協会・設立準備会を組織し、協会の再建を急ぎ、新しい規約を作成した。12月10日には「大日本体育協会・籠球部会」の理事会が開催され、同日「日本籠球協会」が再発足し、理事長に富田毅郎が決定した。協会の活動として、まずは空白となっていたアメリカバスケットボールにおける最新ルールの勉強から始まった。

1946年(昭21)1月には、西宮(大阪)に阪急がインドアコート进行建設、4月28・29日に「日本籠球協会」の復活記念大会(全関東と全関西)を開催、5月に大学リーグ(8校総当たり1回戦)を開催、8月には、全日本実業団選手権大会(第1回トーナメント)を開催するなど徐々に各種の大会がおこなわれるようになった。11月には、第1回の国民体育大会が兵庫県宝塚市・西宮市で開催された。

1947年(昭22)3月22日に「日本バスケットボール協会」へ組織の名称変更を行った。6月には、慶応義塾大学と関西大学の定期戦を行っている。慶応義塾大学は、9月23日、アメリカ軍の兵隊であるS. ブーツ、E. ルーツ、A. ウォーカーなどの黒人選手のバスケットの指導を受けている。アメリカ軍の兵士と交流し指導を受けることによってアメリカの最新のバスケットボールを取り入れようと努力した。12月に戦後初めての全日本総合選手権大会が東京で開催され、「神戸学士クラブチーム」が優勝した。

1948年(昭23)7月にロンドンオリンピックが開催されたが、第2次世界大戦の責任を問われた日本とドイツは、オリンピックに招待されなかった。日本は、海外との国際試合は許可されず、進駐軍とバスケットの交流を通じてのみ、最新のバスケットにふれることができた。また、6月から9月末のシーズン終了までに水泳の古橋広之進選手は、6つの世界新記録を樹立している。牧山圭秀(早稲田大学OB)は、ABLJ(アメリカンバスケットボール・オブ・ジャパン)各軍対抗8チームのリーグ戦をGHQの好意により東京「神田ナショナルジム」(神田国民体育館)で観戦する機会を得ている。

9月15日には、関東大学バスケットボール連盟は、次年度開催する予定の大会を「ナショナルジム」を使用して開催したいと許可依頼の書面を進駐軍の本部に申し入れしているが、許可されず残念ながら実現にはいたらなかった。



ジム使用許可依頼書面

マッカーサー元帥と親しかった白洲次郎の秘書をしていた西郡正三（慶應義塾大学 OB）など多くのバスケット関係者は、進駐軍の幹部へ働きかけ日本のバスケットボールの復活への努力を行ったと考えられる。

- ・ **白洲次郎** 連合国軍占領下の首相であった吉田茂の側近として活躍、貿易庁長官を務めた後、東北電力の会長などを歴任、当時の財界の大立者
- ・ **西郡正三** 東京市立一中、慶応義塾大学卒業後、日本水産を経て、白洲次郎の秘書、日本道路公団初代総裁「岸 道三」の秘書室長、ハイウェイ・トールシステム顧問、日本協会・国際広報部長などを務める。

1949 年（昭 24）10 月、アメリカ・サンフランシスコの 3 A チーム「サンフランシスコ・シールズ」がマッカーサー元帥の指示により、後楽園球場で巨人軍と野球の試合を行った。戦後初めての日米野球であって、これは野球、バスケットボールなどチームでおこなうスポーツ（競技）を奨励するとともに当時の進駐軍の慰問の意味合いもあった。進駐軍は、柔道、剣道などの個人競技「武道」でなく団体競技を奨励している。バスケットボールも徐々に、進駐軍と正式に試合ができるようになる。この年、日本の水泳選手はアメリカに海外遠征している。

5 月に横浜フライヤージムで行われたアメリカ陸軍太平洋戦域のバスケットボール・リーグ戦が日本のスポーツ紙に大きく報道されている。

サンフランシスコ・シールズ・チーム（野球）の来朝だけでなくレスリング、卓球など、他のスポーツも対外的に活況を呈してきていた。バスケットボール界にもメキシコ NOC から日本 NOC（JOC の前身）宛てにメキシコ代表チームが、全日本チームと試合をしたいとの書信がもたらされた。12 月にフィリピンに遠征する帰途、1 月に日本の滞在を希望していた。この訪日希望について日本協会では、未だ国際バスケットボール協会に復帰していない現在、実現はむずかしいとされていた。そこで、日本協会は、諸般の事情を送信するとともに当局に許可申請中であるが、もし許可されたとしても国際試合でなく国際親善試合として行われるであろうとしている。結果として、メキシコ代表チームは、来日するにいたらなかった。

11 月 21 日に、日本バスケットボール協会は、第 8 軍勤務の下田氏を通じて、12 月 25 日午後 7 時から横浜フライヤージムにおいて第 8 軍オールスター対全東京軍のバスケットボールの交歓試合を行いたいと申し入れを受けた。なお、これはマッカーサー元帥政令による日米交歓の公式試合であるが、一般には公開されないと報道されている。（実際は、日本人も観戦している）

11 月 26 日には、日本スポーツ界の国際復帰の第一歩であった永井松三氏（国際オリンピック委員）の IOC 総会出席に陰の援助をしてくれたハワイ 2 世体育協会・会長の吉岡武夫氏は、この程、日本スポーツ界にとって 3 つの大きなお土産をたずさえて来朝した。

- （1）明春ハワイ 2 世バスケットボールチームの訪日親善試合
- （2）アマボクシングの日本代表チーム
- （3）プロボクシング選手のハワイ招へい

バスケットボールは、前シーズンの全米 2 世リーグに優勝のハワイ 2 世チームを中心にした選抜チームを日本に派遣しようという案でこのハワイ 2 世チームの実力には自信があると吉岡氏は語っている。

12 月 25 日におこなわれたバスケットボール界初の日米交歓バスケットボール試合、全 8 軍対全東京の一戦は、25 日午後 7 時半から横浜伊勢佐木町フライヤージムで举行された

が、定刻 30 分前に約 600 名の観客が詰めかけ、全東京 65-62 全 8 軍で全東京が勝利した。

12 月 27 日付日刊スポーツ紙は、日本協会の畑龍雄理事談として、「ハワイ 2 世バスケットボールチームの日本来征は、いよいよ明年 2 月下旬か 3 月上旬には実現することが確定、待望の国際アマチュアバスケットボール聯盟への復帰も明春正月頃には許されるという明るい見通しも持たれる我がバスケットボール界は・・・」と期待をもって語っており、徐々に日本のバスケット界の国際舞台への復帰の日が近いと感じている。

12 月 29 日付日刊スポーツは、「横浜進駐軍全 8 軍と公表されたが、実際は全東京の相手は、横浜進駐軍リーグの第 1 位を続ける「横浜モーターコマンド」(YMC) という自動車部隊、あだ名ウィールズ (車) というチームであった。日本人 1500 名、進駐軍 300 名の観衆を大いに喜ばす大接戦だった」と報道している。

11 月中旬より、アメリカで有数のコーチであったニール・O・ハリスの指導を受けていた慶応義塾大学は、12 月 2 日に、第 1 回全日本学生バスケットボール選手権大会が名古屋市の中京体専体育館で開催され初の栄冠に輝いた。駐留軍の占領下にある混乱のなかで開催された大会は、バスケットボールシューズではなく、代わりに地下足袋、テニスシューズであった。ボールは、駐留軍の払い下げ品を使用するなど苦難の中、関係者の並々ならぬ努力によって開かれた大会であった。

1950 年 (昭 25) 3 月に米軍 84 隊対お茶ノ水付属高女のバスケットボール交歓試合が行われ、3 月 10 日には、ハワイオールスター軍 (A J A) が来日、日本全国で試合を行い多く観衆を集め社会現象にもなった。(近代バスケットの夜明け・ハワイ A J A チームのもたらしたものの・プラザ Nos. 41, 42 掲載)

国際競技団体への加盟問題については、加盟しなければオリンピックに参加できないことになるので、再復帰に、各競技団体は、大きな努力を払った。10 月 25 日には、日本のバスケット界は、悲願であった「国際バスケットボール連盟」の復帰を実現し、正式加盟にいたった。

3) 戦後初めてのオリンピック参加へ

1951 年 (昭 26)、第 1 回アジア競技大会への参加が決定し、2 月 18 日両国メモリアルホールで日本代表選手の紹介に続いて、日本代表対全文理大、日本代表対早稲田大学と壮行試合を行っている。

国際バスケットボール連盟に正式に復帰した日本は、3 月インド (ニューデリー) で開催された第 1 回アジア競技大会に、5 ヶ国が参加、優勝はフィリッピン、日本男子チームは 2 位となった。この年の 9 月に、日本は、サンフランシスコ講和条約が締結され、「政治の世界」でも正式に国際舞台に復帰したことになる。



国民体育館返還記念試合



メモリアルホールで

9 月 26 日、神田にあった国民体育館 (旧ナショナル・ジム) が返還された。「国民体育館返還記念試合」と称してヘルシンキオリンピック第 1 次候補選手対全文理、同候補対日本鋼管の 2 試合が行われた。このことは、当時のバスケットボール関係者にとって大きな喜びであり、日本バスケット界の復活への兆しでもあった。

第1次候補選手のなかで、1956年メルボルンオリンピック（オーストラリア）参加した選手は、「糸山隆司」一人であった。

1952年（昭27）、ヘルシンキオリンピック（フィンランド）が開催される。日本は、16年ぶりにオリンピックに参加が実現したが、当時の日本体育協会の判断で「チームゲームと道具及び経費の多額に要する団体」が参加できないこととなった。その4団体「ホッケー、蹴球、バスケットボール、馬術」は国際会議出席並びに視察員として各1名で、バスケットボールでは、土肥冬男（NOC委員、日本バスケットボール協会理事・早稲田大学OB）のみの参加となり、残念ながら日本バスケットボールチームの参加は実現しなかった（プラザNo.51、メルボルンオリンピック参加までの道程）。

その後、フィリピンなど多くの国際試合を重ねることによって、日本体育協会に日本チームの実力を認められ、1956年（昭31）、メルボルンオリンピック（オーストラリア）に1936年のベルリンオリンピック以来、戦争によるスポーツ活動の中止もあったが、実に20年ぶりに日本バスケットボール界の悲願であったバスケットボール競技のオリンピックへの参加が実現した。

4）最後に

戦争によって全てのスポーツ活動が1944年（昭19）に禁止され、戦前の大日本体育協会も解体された。戦後、バスケットボール界は、いち早く1945年「日本籠球協会」復活、1947年「日本バスケットボール協会」に名称変更した。

占領下の時代にアメリカのバスケットボールの新しい知識を吸収し、幾多の苦難の時期を経て、徐々にバスケットボール界もその実力と実績を積み重ね、1950年（昭25）国際組織に復帰する。戦前のベルリンオリンピック以来、実に20年ぶりに1956年（昭31）のメルボルンオリンピックへの参加を実現した。

戦後の困難な時代に、幾多の混乱と過程をへて、当時の役員・選手達は、全員一体となり、着実にその使命を果たし、日本バスケット界の悲願であった「日本バスケットボールの復興」を実現し、「日本バスケットボールの新たな歴史」がスタートした。

最後に、私たちは、この苦難の時代を経て日本バスケット界の復活に尽力・努力した多くの先人達にここからの尊敬と敬意を表したい。

以上

【主な参考資料】

- ・「バスケットボールのあゆみ」（日本バスケットボール協会50年史）
財団法人日本バスケットボール協会
- ・「占領期雑誌資料大系」（大衆文化編） 株式会社 岩波書店
- ・慶応義塾大学体育会バスケットボール部50年史
慶応義塾バスケットボール三田会
- ・プラザ（Nos.41,42、近代バスケットの夜明け・ハワイAJAチームのもたらした）
- ・プラザ（No.51、メルボルンオリンピック参加までの道程）

シニアチーム紹介 千葉 COKI, COKI

[普及部]

普及部では本誌紙面で全国のシニアチームを紹介しているが、今回は第4回目として“千葉 COKI, COKI”の渡辺時男代表からのチーム生い立ち歴史などを紹介して頂く。

千葉 COKI, COKI

代表 渡辺時男

千葉県船橋市立船橋高校（通称“市船”）のバスケット部は私が入学した昭和35年（1960年）4月に創部した。その5月に体育館落成記念バスケットボール試合で明治大学と教育大学（現筑波大学）がこけら落としの熱戦を繰り広げてくれた。当時憧れの選手で出場さ



れ現在神戸シルバーキッズで活躍されている、天摩義信さん、渡辺操六さんがおられ、お二人とはそのご縁で現在もお付き合いを頂いております。

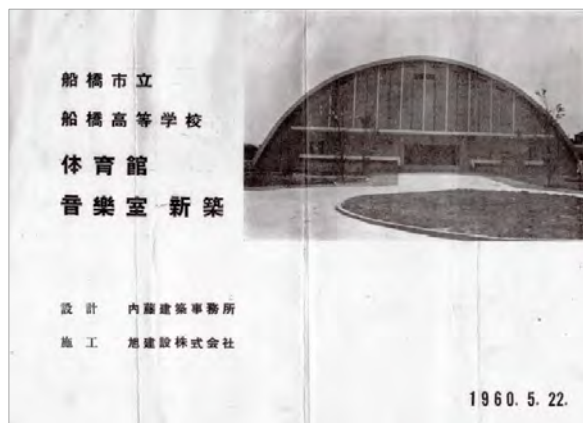
昭和39年（1966年）の船橋市民大会に初めて“市立船橋高校”OBチーム“市船ベアーズ”として参戦（同級生に‘熊’とニックネームの加藤正明君がおり、そのニックネームを借りての出場）だった。大会の回を重ねてチームも大きくなり、30歳以上のチームを作って現在に至っている。

母校“市船”はスポーツ紙面を賑わす高校の名門校で、特に女子バスケット部は西の“桜花”、東の昭和学園、市立船橋と、名門校で競い合って盛り上げている。又、正月の高校サッカー選手権で5回の優勝を誇り‘公立高校なのに’なぜ強い“市船”である。

創立60周年記念事業で、第3体育館完成。1階は“体操競技専用”、地下1階は“吹奏楽部専用”であってこれらも近い将来に日本を代表する部活になっていくだろうと思う。

“市船”は学部にも、普通科、商業科、そして“スポーツ科”を有する、特色のある学校である。

我らシニアチーム、千葉COKI, COKIの命名は、本来なら一緒にプレーしなければならない球友、早稲田大学卒業で現在病氣療養中の“玉木 喬”が「悔しくて悔しくてしょうがない、せめて自分の希望を叶えてチーム名を‘古希’にしてくれ」との希望があって、“KOKI, KOKI”としたのが由来である。



市立船橋高校体育館新築披露パンフレットから

市船バスケット部卒業生（スポーツ科）では、平成 29 年（2017 年）卒業で青山学院から B1 の千葉ジェッツに入団した“赤穂雷太”の今年の活躍が期待されている。

我らの県外大会の始まりは、船橋市ママさんバスケットのリーダー杉山八重子さんから東松山での 50 歳以上の大会を紹介されエントリーするも、ミニバスと同じで 10 名以上でないとエントリーが出来ないとの事で我々は 8 名しかおらず、主催者の“鷲澤秀夫”氏にお願いして了解の上参戦、2003 年東松山大会初参加、戦果はさておき、懇親会で子供の時から憧れだった、ローマオリンピック、東京オリンピックの選手だった“志賀政司”さんにお会いすることが出来ました。この大会も平成 21 年（2009 年）に駄馬チームに引き継がれ、新潟県の魚沼市で開会されており、懇親大会での“餅つき”大会などがあり、盛り上がった大会になっております。

“市船”伝統を引き継ぎ、息の長い“千葉 COKI, COKI”にしていきます。



東松山大会にて（混合編成チーム）



2014 年の交歓大会 酒田市八幡カップにて



最近のメンバー（市船 BEARS ユニフォーム）

会員だより



リングに向かって“飛べ” 10年後の子供達

その7：板橋区チーム “志五小じょうだんズ”

鈴木 承二

近年東京都板橋区のミニバス女子で活躍している、区立志村第5小学校女子ミニバスチーム “志五小じょうだんズ”を紹介する。

“志五小じょうだんズ”は2001年、志村第5小学校 “寺子屋”としてスタートのミニバスチームである。

昨年度（2019年）は、女子チームが板橋区民体育大会で2年ぶり3回目の優勝を果たした。又昨年度は男子チームが新たに発足し、どちらも元気にコート一杯“走り回って”いる。

白滝 隆ヘッドコーチのもと、“楽しいから頑張る”、“頑張るから上手くなる”、“上手くなるから楽しい”の好循環のもと、素晴らしいチームに育ってきている。



志村第5小



白滝ヘッドコーチ

2008年度の板橋区民体育大会初出場では2対99と大敗であったが、それをバネに同上大会の2012年度準優勝、2016年で初優勝、翌年（2017年）の同大会では連覇を成し遂げた。惜しくも18年度は3位にとどまったが、昨年度は上記の様に優勝を成し遂げた。同時に念願だった男子チームが初出場した年であった。

本年（2020年）COVID19の影響下であるが、同上大会での目標を述べて頂いた。

チーム目標

- 男子 板橋区民体育大会
予選突破と入賞
- 女子 東京都ミニバス大会
ベスト8入賞

白滝ヘッドコーチの不变指導方針
“自立心と基な基本技術の養成”
の継続



会員だより

COVID19 のさなか、7月11日に訪問させていただきましたが、ヘッドコーチのもと父兄、コーチングスタッフが子供たちの“思いを”実現させるべく、丁寧に取り組んでおられました。今年の”夢を“実現させるため、目標に向かって頑張ってください。

＊年度のイベントを紹介いたします＊

おにぎり会、親子ゲーム、合宿、ハロウィン会、クリスマス会、卒団式等、チームの子供達、父兄、指導者が一丸となって、“志五小じょうだんズ”を盛り上げる姿が印象的でした。



高校籠球ふるさと記（大阪府編）

[事務局]

大阪府のバスケットの歴史を語る場合、まず最初に思い浮かぶのが明治中期、梅花女学校の校長成瀬仁蔵によって開花した同校のバスケットボールである。日本女子大学の創設者である同氏は米国留学から帰国、同校校長に就任すると熱心に生徒に指導を行った。当時の女性が置かれていた立場からすると画期的な事であり、現在の学校部活動への先駆けともいえよう。

さて、大阪バスケットボール協会であるが、1930年に日本協会大阪支部としてスタート、1935年に大阪バスケットボール協会が設立され、本年で86年目を迎え、現在もバスケットの普及・発展のために活動している。大阪では大正時代末期（1920－1925年頃）に学校にバスケットボールコートが設置され、昭和初期（1930年以降）になると高津中（現 府立高津高）、天王寺中（現 府立天王寺高）、堺中（現 府立三国丘高）等で体育館が建設されている。

当時、男子では中外商業（現在廃校）、次いで大阪商業、そして高津中の黄金時代が続き、豊中中（現 府立豊中高）、東商業（現在統合）、天王寺中、北野中（現 府立北野高）の後、西野田工業が全盛時代を築き、1940年には全国制覇を成し遂げている。

一方、女子では八尾高女（現・府立山本高）、夕陽丘高女（現・府立夕陽丘高）市岡高女（現・府立港高）が活躍しており、市岡高女は1942年に全国制覇を成し遂げている。

以上述べた各学校の活躍の蔭には各学校の先生方の熱心な指導があったことを忘れてはならない。

このような歴史と伝統を誇る大阪府のバスケットボールであるが、本誌では、府内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更に当時の審判員や協会関係者について、戦後の1948年から1988年までの大阪府のバスケット界を通観してみたい。内容的には大阪バスケットボール協会70周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略。女性も旧姓。参考文献は末尾に記載）

以下、公立の普通高校、工業高校は大阪府立、公立の商業高校は大阪市立で、標記は学校名のみとし、私立については、最初のみ、その様に標記する。

（選手の卒業学校名の後の数字は西暦卒年。）

先ずは、男子であるが、大きくは4つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948年—64年）

公立の普通高校、商業高校、工業高校の活躍が目立った。インターハイ出場回数で見ると、7回（予選優勝5回、準優勝2回）の三国丘、6回（予選優勝4回、準優勝2回）の高津、5回（予選優勝3回、準優勝2回）の天王寺商業、2回（予選優勝2回）の北野、2回（予選準優勝2回）の市岡商業、他では西野田工業、大阪商業、住吉商業、池田、太手前、鳳が各1回となっている、このなかでは48年の第1回インターハイ（国民体育大会一：福岡市）での北野の活躍（ベスト8）、61年の第14回インターハイ（青森県青森市）での高津の活躍（第三位の松江工業に惜敗、ベスト16）と63年の第16回インターハイ（新潟県三条市）での三国丘の活躍（優勝の三条高校に3点差の惜敗、ベスト16）が際立っている。特に三国丘と高津の活躍の蔭には、連綿と続くOBコーチの存在がある。両校は伝統的にOBが責任をもって指導する態勢を整えており、この点は銘記しておきたい。

又、三国丘の活躍の蔭には以下のようなエピソードもあるので付記しておきたい。

戦後復興期の 48 年頃、日本伸銅（当時 関西社会人リーグで活躍）創業者の吉田久博（堺中-旧制姫路高校-京大:有名な京都帝大満田 5 兄弟の次男）の出身地であり、母校のある堺市でのバスケット界発展に寄与した。因みに当時、日本伸銅の社員であった名越定（西野田工業卒、後に国際審判員として活躍）は 47 年から 55 年まで三国丘高校のコーチを務め、同校のその後の輝かしい戦績の基礎作りを行った。

この時期、活躍した選手としては、

喜多（北野 49 - 慶応大 - 日本鉱業）、津田（北野 49 - 神戸大）、長島（三国丘 50 - 関西大 - 日本伸銅）、松本（高津 51 - 同志社大 - 三井生命）、横山（高津 51 - 慶応大）、赤穂（高津 51 - 同志社大）、正岡（北野 51 - 大阪大医学部）、北川（池田 51 - 大市大 - 蝶理）、長井（鳳 53 - 大市大）、金銅（三国丘 55 - 慶応大 - 大和証券）、中村（高津 56 - 関学大）、山崎（大阪商業 56 - 関学大）、綿谷（池田 58 - 関学大 - 黒田電気）、一圓（三国丘 58 - 関学大 - 帝人岩国）、荒木（三国丘 58 - 芝浦工大）、長澤（三国丘 58 - 同志社大）、笈田（高津 60 - 東京教育大）、赤松（大手前 60 - 東京教育大 - 松下電器）、森野（大手前 60 - 東京教育大 - 熊谷組）、山合（鳳 60 - 同志社大 - 日本伸銅）、郷間（高津 62 - 慶応大 - 東京海上）、町野（高津 62 - 神戸大）、稲本（高津 62 - 神戸大）、正埜（高津 63 - 大阪大）、神谷（高津 63 - 大市大）、城田（三国丘 63 - 防衛大）、西郷（三国丘 63 - 大阪大）、野田（市岡 64 - 関学大）、藤原（私立上宮 65 - 関西大 - 日本伸銅）、上野（桜塚 65 - 甲南大）、山合（三国丘 65 - 同志社大）らがいる。因みに松本（高津 51）は 75 年から 84 年まで府協会の第 10 代理事長を務めている。オリンピック関連では 1960 年のローマ大会の重点強化選手として全国から数十人選抜されたが、関西地区からは綿谷（池田 58）と一圓（三国丘 58）の 2 名が選ばれている。

余談になるが、戦後、40 年代から 50 年代にかけて活躍した高校の O B が中心になって 2000 年に“好きやねん！大阪バスケ”を立ち上げ、府協会や地元の大学（大市大、大府大、関関同立）、家庭婦人チームの協力も得て今日まで府のバスケットの普及・交流に尽力しているユニークな活動も付記しておきたい。

第二期（1965 年—70 年）

主に天王寺商業（以下、天商と略称）私立浪速、八尾の 3 校が凌ぎを削っていた時代。特に天商のインターハイ準優勝（65 年）、近畿大会優勝（65 年）、浪速のインターハイ第 3 位（70 年）が際立っているが、八尾の近畿大会優勝（68 年）も特筆に値する。

この期間、活躍した選手としては、

天商の高井（66 - 立教大 - 住友金属）、福岡（66 - 関西大 - 松下電器）、井上（67 - 関西大 - 蝶理）、浪速の住友（66 - 関西大 - 熊谷組）、阪田（71 - 同志社大 - 松下電器）、八尾の榊原（67 - 大阪大）、後藤（69 - 大阪大）、西村（70 - 関学大 - 日立大阪）、西尾（70 - 日体大 - 日本鋼管）、他には、松井（市岡商 66 - 関西大 - 蝶理）、北岡（私立近大付 66 - 近畿大 - 摂津板紙）、大谷（市岡 66 - 関学大 - 日立大阪）、室（池田 67 - 大市大 - 東京海上）、河野（私立星光学院 67 - 関学大 - 日立大阪）、豊川（市岡 68 - 大阪大）、山口（市岡 68 - 神戸大）、比嘉（天商 69 - 日体大）、山之上（三国丘 69 - 名工大）、三浦（三国丘 69 - 大市大 - 東京海上）、山本（四条畷 70 - 関学大）らがいる。

第三期（1971 年—79 年）

私立初芝と私立近大付属の両雄に東住吉工業が絡んでいた時代。初芝が 72, 75, 76 年に全国選抜大会近畿予選で優勝、73 年と 77 年の近畿大会で優勝、73 年のインターハイでベスト 4 入りしているのは特筆に値する。

この期間、活躍した選手としては、

松田（三国丘 73 国体選抜メンバー - 慶応大）、村上（初芝 74 - 日米定期戦日本代表）、浜田（大和川 74 - 同志社大 - 住友金属）、的場（羽曳野 74 - 京産大）、南原（近大付属 75 - 近畿大）、伊林（近大付属 75 - 近畿大）、藤井（東住吉工 75 - 京産大）、石橋（初芝 76 - 日体大）、松田（近大付属 76 - 法政大）、石川（初芝 78 - 京産大 - 三菱電機）、荒井（山本 79 - 京産大 - 熊谷組）、八木（豊中 79 - 筑波大 - 東京海上）、竹本（近大付属 79 - 法政大）、井上（金岡 80 - 近畿大 - マツダオート）、細川（金岡 80 - 京産大 - 日立大阪）、天野（大手前 80 - 大市大）、金城（初芝 80 - 大商大）、兼田（初芝 80 - 近畿大）らがいる。

第四期（1980 年—88 年）

私立初芝、私立大阪商業の両雄に、私立大商大付属堺が絡んでいた時代。それぞれ全国選抜大会近畿予選で初芝が 84 年、87 年、88 年に優勝、商大付属堺が 81 年、大阪商業が 83 年優勝している。

この期間の著名選手として、唐木田（大阪商業 81 - 中央大 - 松下電器・日本代表）、天日（羽曳野 85 - 日体大 - 松下電器・日本代表 B - B リーグ・大阪エヴッサコーチ）がいる。

またこの期間、活躍した選手としては、

下村（私立浪商 82 - 大商大 - 日本鋼管）、行広（私立大阪学院大付属 82 - 京産大 - 松下電器）、濱田（枚方 82 - 同志社大 - 松下電器）、北村（商大付属堺 82 - 大商大 - 三井生命）、小堀（大商大付属堺 83 - 大商大 - マツダオート）、佐藤（私立同志社香里 84 - 同志社大 - 住友金属）、酒井（商大付属堺 84 - 大商大 - 熊谷組）、寺本（大阪商業 85 - 日本大）、山西（高津 85 - 筑波大）、高橋（大教大天王寺 86 - 筑波大 - 日本鉱業 - 日本電装）、小林（初芝 86 - 近畿大 - 日立大阪）日下部（大教大天王寺 87 - 同志社大）、藤原（桃山学院 87 - 立命館大 - 豊田通商）、竹田（東住吉工 87 - 天理大）、竹橋（枚方 87 - 天理大）、吉田（大阪市立桜宮 87 - 順天堂大）、宮本（東住吉工 88 - 天理大）、村田（大商大付属堺 88 - 大阪産業大 - 三井生命）、北本（島上 88 - 天理大 - アイシン精機）、兼田（島上 88 - 愛知学泉大 - 愛知機械）、山本（東住吉工 89 - 近畿大 - 日立本社）、下坂（大阪商業 89 - 大体大 - 日立大阪）、岡川（大阪商業 89 - 愛知学泉大 - 愛知機械）らがいる。

ユニークなところでは大阪エヴッサのジェネラルマネジャーの阿部（茨木 84 - 京大 - リクルート - B J リーグ専務理事）がいる。

次に女子であるが、大きくは 4 つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年—64 年）

52 年頃までは、府立の桜塚、春日丘他府立高校が凌ぎを削っていた。

その後、64 年頃までは、私立樟蔭、私立東大谷が競い合う時代の到来。これに岸和田、八尾の府立勢も頑張っていた。

この間、56 年には岸和田がインターハイでベスト 4 に残っているのは特筆に値する（O B コーチの森が蔭の立役者）。60 年には東大谷が近畿大会で優勝している（西野田工 O B の名越コーチが蔭の立役者）。

第二期（1965 年—71 年）

私立薫英女学院が圧倒的な強さを誇り、6 年連続インターハイに出場し、67 年には準優勝、70 年にはベスト 4 の成績を残している。70 年、71 年と連続して近畿大会で優勝している。この間、私立樟蔭東が徐々に台頭、両校が競い合う時代の先駆けとなる。この時期、両校の蔭に隠れ、目立たないが、大阪市立淀商業の頑張りも見逃せない。

この期間の著名選手として、黄（旧姓武田：樟蔭 67 - ユニチカ山崎：第 1，2 回日本リーグ優秀選手）、松岡（薫英 72 - ユニチカ山崎：ナショナルチームメンバー）がいる。またこの期間、活躍した選手としては和田（薫英 67 - 日本勧業銀行）らがいる。

第三期（1972 年—81 年）

私立樟蔭東が圧倒的な強さを誇り、76 年を除く 9 年間、インターハイに出場し、優勝 5 回（74, 75, 77, 78, 81 年）、ベスト 4 を 1 回（80 年）、全国選抜大会でも優勝を 3 回（74, 76, 79 年）、国体では優勝 4 回（74, 75, 77, 78 年）、準優勝を 1 回（81 年）、近畿大会でも優勝を 5 回（74, 75, 76, 77, 80 年）飾っている。これを私立薫英女学院が追いかける時代。この時期、両校の蔭に隠れ、目立たないが、府立河南や私立浪商の頑張りも見逃せない。

この期間の著名選手として、横井（薫英 73 - ユニチカ山崎 - ナショナルチームメンバー）、福井（樟蔭東 75 - ユニチカ山崎 - ナショナルチームメンバー）がいる。この期間、活躍した選手としては、小田（樟蔭東 75 - シャンソン）、高津（樟蔭東 76 - 樟蔭東短大）、中島（樟蔭東 76 - 樟蔭東短大）らがいる。

第四期（1982 年—88 年）

私立薫英女学院が強さを誇り、それを私立樟蔭東が競い合う時代の到来。インターハイには両校が出場（府予選では薫英が 4 回、樟蔭東が 3 回優勝）、薫英が優勝 1 回（85 年）、準優勝 2 回（84, 86 年）樟蔭東が準優勝 1 回（85 年）の成績を残している。この時期、両校の蔭に隠れ、目立たないが、府立勢（泉北、泉南、東百舌鳥、東豊中他）の頑張りも見逃せない。

この期間、活躍した選手としては

田中（薫英 85 - 筑波大）、百々（樟蔭東 86 - 筑波大）、田中（樟蔭東 86 - 鹿屋体育大）、松田（樟蔭東 87 - 鹿屋体育大）、神宅、志礼、倉家（樟蔭東 87 - 樟蔭東短大）、小森、原（薫英 87 - 大阪薫英短大）、嶽本、中村（樟蔭東 88 - 樟蔭東短大）、田村、山岡、迫留（薫英 88 - 大阪薫英短大）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・長島秀明 （三国丘高 1950 年卒 - 関西大 - 日本伸銅）

1953 年から 63 年まで、名越の後を受け、同校男子部を指導。同校の輝かしい戦績の蔭の立役者。1978 年から 80 年まで再度、同校を指導。

- ・長渡俊一 1970 年以降、40 年近く薫英女学院チームを指導、超一流チームに育て上げたカリスマコーチ。2014 年 3 月現役コーチのまま、66 才で早世されたのが惜まれる。

- ・原田 茂 樟蔭東 総監督

近大付属高校から日体大に進学、1967 年卒、同校教員としてバスケット部を指導、その後の同校の輝かしい戦績の立役者。特に中学時代はバレー選手であった長身の福井（75 年卒）を発掘、自宅に下宿させ、育て上げたことは有名な話。その後、日本バスケットボール協会理事（女子強化本部長）や全日本女子監督、ユニバーシアード監督なども務める。近畿バスケットボール協会副会長、大阪バスケットボール協会会長他、多くの役員も歴任。因みに、同氏は全日本女子の監督コーチであった尾崎正敏の弟子を自認し、そのバスケット哲学を受け継ぎ、実践してきた。

- ・吉川栄一 天王寺商業のコーチ。1951 年に同校を卒業後、20 数年にわたり、同校を指導、同校の輝かしい戦績（1964 年の国体 3 位一単独、チーム。1965 年のインターハイ準優勝他）の蔭の功労者。

- ・山口清司 浪速高校コーチ。部員に対し、厳しくも愛情あふれる献身的な姿勢で同校を指導、73 年のインターハイで同校を第 3 位に導いた。

- ・平井文徳 東住吉工業の監督として69年から3年連続、チームをインターハイに出場させた。後に府高体連B・B専門委員長、府協会理事長を歴任。
- ・岡田伸二 上宮高校から天理大を卒業後、大阪府教員。平井の後を継ぎ、80年から東住吉工業の監督。88年に初のインターハイ出場、93年以降の輝かしい戦績（93年からインターハイ連続出場、2001年にベスト4。95年からウィンターカップ連続出場99、2000年とベスト4）の立役者。全日本男子ジュニアコーチも歴任。
- ・溝辺亘洋 1966年日体大卒業、近大付属の教員としてバスケット部の顧問に就任。67年のインターハイに初出場、ベスト16。翌年のインターハイに連続出場、同年の国体の大阪少年男子チームのコーチも務める。その後、71年から78年まで連続してインターハイ出場、78年には初めてベスト8に進出、また同年の全国選抜大会に近畿代表として初出場。国際審判員の資格も獲得。
- ・松井貞子 日体大卒業後、1964年初芝高校に就職、監督としてバスケット部の指導を開始、1999年まで指導。この間、73年にはインターハイ第4位、91年には準優勝、92年には第4位と大阪のレベルを全国トップレベルにまで引き上げた。厳しい指導で知られたが、保護者の理解の下、多くの選手を育て上げた。「コートを離れたら、上級生も下級生も同じ」という当時としては画期的なチーム方針を打ち出したのもユニーク。
- ・山岡秀雄 大商学園監督 76年に大阪商業へ就職。79年にはインターハイに初出場、その後も82、84、86、87年と出場、94年には第3位、そして同年の全国選抜大会で同校を優勝に導いた。府高体連B・B専門委員長、府協会理事等を歴任して現在、大阪府バスケットボール協会会長。

あと、大阪府の高校出身で著名な指導者を挙げると

- ・嶋田出雲 生野高校から大市大に進学、関西大学リーグ1部で活躍、インカレにも出場。1958年卒業後は、大市大チームの指導の傍ら、クラブウ女子チームの指導も行い、日本リーグ入りのチームを育て上げる。全日本女子 チームのトレーナーも務める。
- ・笈田欣治 高津高校から東京教育大に進学、1964年卒業後は、関西大学のコーチに就任、学生を指導する傍ら、米国ノースカロライナ大学の名将、ディーンスマスの指導を受け、その技術を日本に持ち帰った。嶋田といっしょにクラブウ女子チームをコーチ。

<審判員>

- ・長沢精蔵 1949年日本協会発表全国レベル公認審判員7名のうちの一人に選出される。
- ・杲田吾一郎 国際審判員。 1950年日本協会発表全国レベル公認審判員3名のうちの一人に選出される。審判員として1964年の東京オリンピックに参加。
- ・名越 定 国際審判員。杲田とともに審判員として1964年の東京オリンピックに参加。

<協会関係者>

- ・宮畑榮理事長 1948—49年
- ・明石毅会長・松本久男理事長 1950—52年
- ・島瀬伝会長・松本久男理事長 1952—54年
- ・川口和平次会長・松本久男理事長 1954—61年
- ・川口和平次会長・武田太治美理事長 1961—63年
- ・川口和平次会長・松本久男理事長 1963—65年
- ・川口和平次会長・堀江治理理事長 1965—67年

- ・塩塚忠美会長・堀江治理事長 1967—71 年 ・橋本正二会長・濱谷次理事長 1971—75 年
- ・橋本正二会長・松本健理事長 1975—76 年 ・福山真三郎会長・松本健理事長 1976—84 年
- ・福山真三郎会長・橘中理事長 1984—86 年 ・福山真三郎会長・尾崎正敏理事長 1986—90 年

本稿の対象期間（1948 年から 88 年）で 8 名の方々が理事長を務めておられる。在任期間は様々であるが、尾崎を除く 7 名に共通して言えることは、自らが育った大阪の地を愛し、大阪のバスケット振興に並々な情熱を注ぎ、成果を上げ、貢献されてきたことである。本来であれば、個別に紹介すべきところではあるが、それを割愛し、ここでは第 12 代理事長の尾崎正敏について、簡単に紹介させて頂く。

尾崎正敏は岡山出身（県立操山高 - 早稲田大）で高校との関わりでは早大卒業後、コーチとして出身地岡山の就実高校を 53 年度の第 6 回インターハイで優勝させている。大阪との係りは社会人になってからであるが、1956 年より大阪市平野区に籍を置くニチボー平野（その後、ユニチカ山崎）の監督に就任、自らを“籠狂”と名乗り、一度ボールと取り組むと、当時その厳しい指導で“鬼の大松”と呼ばれ、東洋の魔女”を育てたニチボー貝塚バレーの大松監督にも一歩も引けをとらない情熱で選手の指導を行い、1958 年 1 月の全日本女子総合選手権での初優勝を始め、その後のチームの輝かしい歴史を作った功労者である。全日本女子バスケットボールチームの監督も務め、74 年にはアジア大会で金メダル、75 年の世界選手権で銀メダルを取っている。99 年からは、2 期 4 年に亘り、日本バスケットボール協会の会長も務めたバスケット人なら誰もが知る日本を代表する名将である。「スポーツのチーム作りは一つの経営学であり、指導者たるもの勝利追及の陣頭指揮者であるとともに経営者たれ」という哲学に多くの指導者が影響を受けた。又、戦略や戦術に対するネーミングがユニークで分かり易く（忍者ディフェンス、マッハ攻撃等）、多感な高校生を指導する指導者にも多大な影響力を及ぼした。

<大阪府高校体育連盟（高体連）>

1948 年初代部長山本信太郎（府立八尾高校校長）、初代主任（現在の専門委員長）の大木行徳（府立八尾高校）により高体連がスタート、爾来、五代、28 年に亘り八尾高校長が部長を務め、学内外でバスケットボールの普及、精神面の指導に努めてきたが、一貫してそれを支えたのが、大木。その功績は極めて大きい。その精神はその後の部長や専門委員長にも引き継がれ、大阪府高体連のバックボーンになっている。

編集後記

今回、大阪府の高校バスケットの歴史を通観するに際し、資料提供でご協力頂いたのが、三国丘高校女子バスケット部 O G で府協会理事の葉井優子氏。聞けば、長年にわたり、地元中学の教員を務め、バスケット部の指導を熱心に続けてこられたとのこと。このようないわば草の根レベルでの指導者の存在が、大阪府の高校バスケットの今日の隆盛を支えているといっても過言ではないであろう。

最後に、今回、情報の整理に当たり、三国丘高校男子バスケット部 O B の皆様（西郷正雄氏他）には多大なご協力を頂いた。誌面を借りて謝意を表したい。

- <参考文献> 大阪バスケットボール協会 70 周年記念誌
バスケット三丘会会誌（大阪府立堺中学校・三国丘高校）
大阪府立高津高等学校バスケットボール部七十七年年史

神田バスケットボール資料室（2020 年 9 月）

[事務局]

日本バスケットボール振興会は、過去に発行された団体・出版物のほか日本のバスケットボールの歴史を伝える貴重な資料・記録などを「先人の軌跡」として収集・整理・保管し閲覧可能にしています。過去の事を考え極め、現在および未来のことを考える資料として後世に伝えることを目的とした活動です。

現在まで多くのバスケットボールの専門誌・機関誌が発行されていますので下記に案内します。下記第 1 項を除き、神田バスケットボール資料室が所蔵しています

1. 【バスケットボール】 創刊号～14 号まで（全号、秩父宮スポーツ図書館に保管）

発行人：薬師寺尊正 発行社：バスケットボール社

内 容：1930 年（昭 5）創刊、当時の東京 YMCA チームの 薬師寺が独自で編集し発行した日本で初めての籠球専門月刊誌、B 5 判 50 銭で販売、

2. 【籠球】（復刻版所蔵）

発 行：大日本バスケットボール協会

第 1 号 1931 年（昭 6）5 月 18 日～

第 33・34 号（終刊号）1942 年（昭 17）3 月 31 日

単価 50 銭、B 5 判



創刊号

3. 戦前の大日本体育協会発行の機関誌

【アスレックス】

1921 年（大 10）3 月 9 日第 1 号、翌年 1922 年（大 11）4 月 9 日創刊～

1932 年（昭 7）12 月まで通巻 104 号発行

【オリムピック】

1933 年（昭 8）1 月号から改題、1937 年（昭 12）5 月まで

【オリムピック】

1937 年（昭 12）6 月号から

【体育日本】

1938 年（昭 13）10 月から 1942 年（昭 17）10 月 1 日まで

1942 年（昭 17）10 月 1 日に「国民総合雑誌」として創刊、

「陸上日本」「水泳」「庭球」「籠球」「蹴球」など加盟団体の機関誌を統合

各号に李相佰を始めとして、バスケットボール関係者がバスケットの記事を投稿し掲載されている。（資料室には、各号に掲載されたバスケット

関連記事を抜粋し整理ファイルしてある）

戦後、日本体育協会は、「体協時報」を発行



創刊号

4. 【バスケットボール】

NO. 1（1947 年 6 月）～NO. 108（1973 年 9 月）まで

発 行：日本バスケットボール協会

原稿は、縦書きで右から左へ文章が構成されている。

1974 年（昭 47）から「日本バスケットボール協会報」「バスケットだより」など大会記録などをまとめたものが発行されている。

5. 【バレーボール&バスケットボール】

1959 年 6 月創刊、ベースボールマガジン社が発行、定価 100 円
バレーボールとバスケットボールの技術、大会記録等写真で紹介されている。創刊号の表紙は、バレーボールの小山 勉選手。8 月号の表紙は、バスケットボール日本鉱業の奈良節男選手。バレーボールとバスケットボールの話題の選手が、交互に表紙を飾っている。



創刊号

6. 【バスケットボールイラストレイテッド】



創刊号

創刊号 1965（昭 40）4 月 15 日～

発行所：株式会社ビービーアイ、

創刊号の編集責任者は、東京教育大コーチ笠原成元氏（当時）編集スタッフは、東京教育大学OBで、東京教育大学チームの協力です。当初は、バスケットボールの技術を写真で紹介する内容が主体であったが、NBAの関連情報をあんどうたかお氏が 1956 年から執筆・編集（編集長も務めた）、ユニフォーム（ファッション）などの紹介もあり、広くバスケット界を啓もうリードした。

7. 【スポーツイベントバスケットボール】

1976 年（昭 51）4 月創刊、タブロイド判を毎月 1 日と 15 日に月に 2 回契約者に郵便にて発送。1996 年（平 8）4 月から A 4 判の冊子スタイルに変更。バスケットボール界のタイムリーな話題をリアルタイムに報道、30 年近く続いたが、2005 年（平 17）12 月 681 号をもって終刊。

翌 2006（平 18）1 月スポーツイベントハンドボール 1 月号別冊号として「スポーツイベントバスケットボール」を発行している。年間購読料 3,600 円、1 部 150 円で販売、当時のバスケットボール専門誌としてバスケット界に大きく貢献した。編集長の奥山氏が亡くなったことは、非常に残念なことであった。



創刊号

8. 【月刊バスケットボール】（一部分のみ資料室に保管）

1973 年（昭 48）9 月 25 日発行の 11 月号が創刊号となる。発行所は、日本文化出版株式会社、B 5 判の冊子、定価 350 円でスタート、創刊号の特集は、「モスクワユニバーシアード」。現在は、A 4 判となり、その豊富な記事・情報は、日本だけでなく世界のバスケットの今を知る貴重なバスケット情報誌となっている。



創刊号

事務局だより

[事務局]

◇ 第13回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI の開催について

令和2年度の大会開催については、残念ながら開催の中止を各チームの皆さんに連絡させていただきました。令和3年度については、東京オリンピックの開催が延期になった関係で代々木第二体育館の使用が令和3年12月から令和4年3月までに限定されています。新型コロナウイルス感染の影響で来年の東京オリンピックの開催も明確ではありませんが、前記期間での開催に努力します。

◇ 神田バスケットボール資料室

振興会会員の榊原さんのご友人から過去に発刊された「バスケットボールイラストレイテッド」約90冊を資料室に寄贈していただきました。現在、保管してあるものと照らし合わせ、確認作業をおこない整理しました。

◇ 会員・部員の募集

皆様の周囲の方々を振興会会員にお誘いいただきたくお願いします。振興会紹介パンフレットはホームページから得られます。また、事務所にお問い合わせください。振興会の仕事を手伝い頂く方が少ないです。ご自分で新しい仕事をされても結構です。できれば現在の仕事に必要な、例えば、パソコンに慣れた人材が欲しいです。手持ち無沙汰な方は事務所までお声かけください。事務局では大歓迎です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方をお願いします。

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行

00100-3-316035

NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行

神保町支店

普通預金口座

1684743

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行

丸の内中央支店 普通預金口座

1004687

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

◇ 「千葉 COKI・COKI」チーム代表の渡辺さん

「駄馬」「岩手マスターズ」「横浜ビー・シーガルズ」に続いて、「千葉COKI・COKI」チーム代表の渡辺さんから「チーム紹介」の投稿をいただきました。「古希 70 才」までバスケットボールを頑張ることが目標で、まだまだ意気軒高です。

◇ 岩手マスターズ油井さんの雑文集「落書」

岩手マスターズの油井康さんからご本人の「私の履歴書」といえる雑文集「落書」を送付していただきました。70 年以上の「バスケット歴」だけでなく「ご夫婦の海外スキー歴」など、多趣味の経歴がまとめられています。バスケットについての熱い思いが感じられる油井さんの「油井言」（遺言）です。

◇ 「Sport For Smile 代表理事」梶川三枝さんの記事

8 月 29 日の朝日新聞（夕刊）に掲載されています。梶川さんの「スポーツのチカラをよりよい社会づくりに役立てる活動」については、本人に事務所に来ていただいてお話をお聞きし、プラザに掲載したことがあります。世の中には目をそむけたくなる社会問題がたくさんありますが、梶川さんは「私は社会を変えるスポーツの力を信じます」「社会を変えるスポーツの力とは・・・」と力強く語っています。

◇ B リーグ外国人選手の入国問題

新型コロナウイルスの影響による諸国の上陸拒否により外国人選手 6 割が入国できていない。10 月の B リーグ開幕に向け、チーム作りの真ただ中となる時期。B リーグによると、外国人選手が約 60 人、スタッフは 15 人が入国できていないという。新規契約の場合はビザの問題もあり、さらにハードルが高くなっているという。B リーグは別の選手を追加で短期契約できるよう規定を緩和することを決めた。（2020 年 8 月 26 日朝日新聞）

チームの編成にとって、なんとも解決の糸口を見つけれない頭の痛い問題である。新型コロナウイルス感染の先行きが見えない中、バスケット界だけでなくスポーツ界への計り知れない影響がうかがえる。

N P O 法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／F A X (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp
